

人生を大きく変えるチャンスへと……

みなさんは大切な人へ届けたい言葉はある  
だろうか。私はみなさんにこの言葉を贈りた  
い。それは、「努力・気力・忍耐力」という  
言葉だ。この言葉は、小学生の時の担任の先  
生が、「この三つの言葉はまだ先生にはでき  
ていない。だからみんなにはこの言葉を、心  
の隅にでもいいから残しておいてほしい。い  
つかはきっと何かの役に立つから」と言っ  
てくれた。私達にたくした言葉である。この言葉を耳に  
した当時の私は、特に気にかけるわけでもな  
かった。おそろくみなさんも今、この言葉を  
聞いて、何も思うことはないだろう。しかし  
後にこの言葉は、私の心の中で大きく響き、  
人生を歩むために大切なことであると、私は  
気付くこととなる。私はそろばんを習っている。そろばんには  
読み上げという一つの競技がある。この競技  
は、「願いましたは」の言葉でみんなそろば

んの玉をリセットし、計算を始める。私はその瞬間が一番わくわくする。習い始めて六年は経つが、始めてから二・三年まではそろばんに対してとても受動的で、言われるがままにただただやらされているだけだった。それが変わったのは、私が小学三年生だった時に行われた初めての大会に挑戦した時のことである。大会によつて競う競技は異なるが、たくさんさんの選手が「始めっ」から「やめっ」という合図まで一生懸命玉を動かす。この解答の正答数で順位がつけられる。もし、上位で正答数が同点の場合、同点決勝というものが行われる。同点決勝では、スピードと正答数が競われる。このようにして大会の順位が決定する。といつても、初めての大会だったため、緊張して全く力を発揮できず、点数も低かった。他の選手が表彰台に立っている姿を見ていると、とてもうらやましく悔しかった。だが、それと同時に、その悔しさをバネにもつと頑張ってみようという気持ちが生

え、入賞して表彰台に立つという目標ができた。  
このことをきっかけに、毎朝必ず六時には起きて三十分はそろばんに触れたり、大会に積極的に参加したりと努力した。すると、やはり努力は裏取り、返ってきた。前は違った感覚で指がスムーズに動くようになり、点数も上がって、大会で勝てるという自信が出てきたのだ。そして、ついにやっとな小学六年生の時の大会で二位に入賞し、あこがれだったトロフィ―を手にすることができたのだ。  
この時味わった達成感には、これまで自分がそろばんに対して熱心に取り組み、目標を立てて努力を積み重ねてきたからこそできた経験だと思う。  
私は、この経験を機に学んだことがある。それは、達成するための「努力」には、「気力」と「忍耐力」が必要であるということ。人間は必ず何かの壁にぶつかる時が来る。そんなときは、「願いましたは」のリセットの合図のように、一度立ち止まり「気力」と

「忍耐力」を働かせてみるのはどうだろうか。  
そしてまた新しいエンジンをかけ、前に進もうと「努力」すれば、人は困難を乗り越えられる。そう私は学んだ。悔しい経験、悲しい経験、そんなたくさんの経験は悪いことではない。人生を歩み、困難を乗り越えて成長するチャンスだということだ。その経験を放置するのではなく、その失敗や経験を次につなげようと「努力」する力が本当の「気力」と「忍耐力」だと考える。  
私はこれから、明るく良い瞬間もあれば、現実から逃げ出したいくなるような辛い瞬間もある未来を、失敗と成長をくり返しながらいきだいたいと思う。だからみなさんも、どんな壁にぶつかったとしても、成長するチャンスだということをお忘れずに歩み続けてほしい。そして、その努力の過程がきつと人生を変える大きなチャンスへとつながるだろう。その先には、明るい未来、豊かな社会、そしてみなさんのあふれる

